

海外事務所だより

シドニー事務所

# 日豪交流の活性化に向けて

(財)自治体国際化協会元シドニー事務所所長補佐 川上 深志(群馬県太田市派遣)

## はじめに

日本とオーストラリアの姉妹都市数は、都道府県と州との提携も含めると、現在109件あり、活発な国際交流が行われています。2013年は、奈良県の大和高田市とニュー・サウス・ウェールズ州のリズモア市が姉妹都市提携50周年にあたり、シドニー事務所としては、両市の姉妹都市提携を記念し、姉妹交流をテーマにしたフォーラムを開催し、日豪交流の活性化につなげていきたいと考えています。日豪両政府観光局においても、2013年を「日豪観光交流年」として位置づけ、日豪両国で積極的な観光交流プロモーションを行い、観光客誘致につなげる取り組みをしています。



## Japan Expo and Matsuri in Sydney

2012年12月15日に、シドニー市内にある観光地で、Japan Expo and Matsuri in Sydney 2012 (以下、「日本人祭り」)が開催されました。今回の日本人祭りは、日本のお祭り文化を発信し、クールジャパンなどの日本の多様な魅力を提供するとともに、訪日旅行情報を提供することによって、日豪観光交流年に向けた機運の醸成を図ることを目的として開催されました。来場者数は、15,000人

を超え、当事務所のブースにも多くの来場者に寄っていただき、地方公共団体の皆さまからいただいたパンフレットを手にとりいただきました。今回は、東北観光推進機構、東京都および沖縄県からの参加もあり、大いににぎわいました。



クレアブースを訪れる来場者

さて、オーストラリアでは、どのようなパンフレットが好まれるのでしょうか。今回日本の地方公共団体からいただいたパンフレットを来場者が手にする傾向を分析してみますと、早い段階で配布が終了したパンフレットとして、日本国内でも知名度の高い団体、スキーなどのウィンタースポーツで人気の団体、表紙デザインが魅力的な団体(温泉、森林散策、桜、日本食、日本的な人形など)が挙げられました。パンフレットの表紙デザインとして、何を表現しているのかわかりづらいものより、日本をイメージしやすい自然や歴史的建物、目を引く彩りのあるパンフレットの方が比較的好まれるようでした。

今後も、このような機会を通じて、魅力ある日本を紹介すると



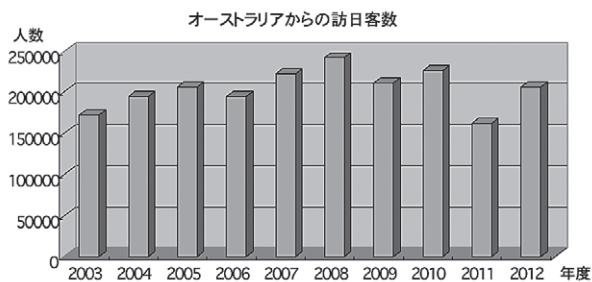
各都道府県のパンフレット

もに、多くのオーストラリアの方に、日本を訪れていただけるよう、プロモーションを行っていききたいと思います。

## 旅行の動向

日本政府観光局 (JNTO) によると、2012年の訪日旅行者数は、836万人を超え、過去最高の2010年に次いで2番目となり、震災前の水準にほぼ回復しています。

オーストラリアから日本には年間20万人以上(2012年)の旅行者が訪れており、円の割高感や東日本大震災の影響はあったものの、現在は例年並みの旅行者数となっています。通年で1月が最も訪日旅行者が多く、2013年1月には過去最高の訪日旅行者を記録しました。これは2012年10月以降の円安の進行が後押ししただけでなく、メルボルンやシドニーで開催されたスノー旅行博への出展等により需要が拡大した模様です。



「日本政府観光局 (JNTO)」資料より作成

オーストラリアを取り巻く環境としては、

- ①日本に対して大変好意的
- ②過去20年以上、安定的に経済成長し続けている先進国
- ③長期休暇がとりやすい職場環境 (12月および1月が休暇シーズン)
- ④政治・経済的に良好な二国間関係が長期間継続等が挙げられます。また、観光庁の訪日外国人の消費動向調査によると、オーストラリア人の観光・レジャーを目的とした平均泊数は10泊以上であり、訪日旅行の満足度が高く、再訪の意向も強いようです。

オーストラリア人の訪日旅行でのアクティビティについては、他の外国からの訪日旅行者と同様に、日本食やショッピングが人気ですが、他国に比べ、

生活文化体験や歴史・伝統体験などの体験型アクティビティを志向する傾向にあるようです。

オーストラリアからの観光客をさらに呼び込むチャンスは大いにあるのではないのでしょうか。

## 日豪姉妹都市交流の歩み

戦後間もない頃に、日豪間の姉妹都市提携のきっかけを作ったのは、大和高田市内の教会に赴任していたリズモア市出身のパウロ・グリーン神父でした。戦後の傷跡がまだ残る中、神父は、集めた募金で大和高田市に幼稚園を建て、幼児教育にご尽力されました。同じ頃に当時の市長であった名倉仙蔵氏と神父との間で、両市の姉妹都市提携の話題が挙がり、日豪間で初めての姉妹都市提携が、1963年8月7日リズモア市にて締結されました。両市の盟約書には、両市間の交流にとどまらず、交流を通して日豪の相互理解が深まり、世界平和につながるようとの願いが謳われています。

パウロ神父の兄、故トニー・グリーン神父も日豪友好のためにご尽力された一人です。古都奈良とオーストラリアの首都キャンベラは、今年姉妹都市提携20周年を迎えます。パウロ神父は、現在も日豪交流の活性化に尽くされており、グリーン神父兄弟をはじめとする多くの方々のご尽力を通じて、両国は、文化交流だけでなく、経済、貿易等かけがえのない関係を築いています。

## お知らせ

シドニー事務所では、オーストラリアのほぼ全ての地方自治体、約550団体に対して、「シドニー事務所ニューズレター」を配信しています。今年は「日豪観光交流年」ということもあり、特別企画として、そのニューズレターに日本の地方公共団体等の皆さまから、観光PR記事をいただき、魅力ある日本を、オーストラリアの方々にアピールしています。ぜひ地元の名物、名所等観光PRをしてみたいかがでしょうか。

記事掲載等についての詳細はシドニー事務所 (mailbox@jlgc.org.au) までご連絡ください。